

令和元年 8 月 29 日

# 市民協働会議アドバイザーからのメッセージ

荒井壮一・和泉浩（秋田大学教育文化学部）

## 1. 市民協働の意義：何のための会議か？

### ■ 地方自治と地方分権を巡る近年の潮流：

- 日本の財政と地方交付税交付金、「地域の自律的發展」
- 地域の特性に合った地域独自の取り組み、創意工夫が求められる時代



- 市民のニーズ把握：自分たちにいま何が必要か？自分でも意外とわからないことも  
→ データから漏れてしまう部分を、現場の当事者感覚で把握する重要性
- 地域を構成するメンバーが同じテーブルで「より深く考えてみる」機会
  - 「地域づくり＝地域に生きる我々の共同作業」という意識
  - 「協働」のためのネットワーク構築：「お互いの顔が見える」関係性
  - 困難の分かち合い：誰が、どのような現場で、どのような苦労を経験しているか？
- 確かな「能代市の良さ」の再確認と、「健全な危機感」の共有  
→ 「将来世代に何を、どのように残す」のか？いつから・誰が・何をすべきか？

## 2. 目標と現実のかい離に対する考え方：危機感と現実感のバランス

### ■ 具体的な作業内容：目標指標の点検・評価・改善策の検討

- 計画通りに進んでいるものもあれば、そこから逸脱（かい離）するものもあるはず



- ① 地に足のついた「健全な危機感」と、現状維持に留まらない程よい野心
  - ② 確かな「能代市の良さ」を工夫して維持していくという姿勢
- 2つのバランスを意識した点検・評価・改善策の検討

## ■ 地域社会に求められる危機感と競争意識

### 【参考】各種の資料に見る、中央から地方へ注がれる視線

- 「増田レポート」：2040年までに49.8%の自治体で20～39歳女性が半減の見込み  
→ 人口減少に歯止めがかからず消滅するおそれ
- 内閣府『地域の経済2017—地域の「稼ぐ力」を高める—』：自律的な成長力  
→ 累増する財政赤字&限られた資源の中で地域の生き残り戦略を模索する必要

- 少子化・人口減少と地域社会のダウンサイジング（規模縮小への**危機感**）  
→ 現存するものが縮小される時、誰がどんな優先順位を付けていくのか？
- 地域の資源をどう活かし、どこで勝負していくのか？（地域間**競争の意識**）  
→ 地域産品と市場戦略，子育て世帯の取り込み，ふるさと納税など

## ■ 健全な危機感を持つために：「とにかく持てば良い」ものかと言うと？

### 【参考】大手自動車メーカーによる燃費偽装問題：ひとつの解釈

- 同業他社との激しい燃費競争を前にした、経営陣の**強い危機感**
- 上層部から現場への度重なる燃費目標変更指示
- 厳しい人員・資源不足の中、何とかやりくりする開発・検査体制の限界

- 危機感を持つことが、常に良い結果を生むとは限らない  
→ どのような危機感の持ち方が市民の幸福に繋がるのか？

## 3. 建設的&円滑な議論

### ■ ブレーン・ストーミングの基本を参考にした、いくつかの注目ポイント

- (1) **批判をしない**：批判によって良いアイデアが出にくくなる  
→ 奇抜なアイデアから、打開策が得られる場合も
- (2) **傾聴と発展**：他人のアイデアに耳を傾け、それをさらに膨らませていく  
→ 単なる「言いつ放し」に終わらせない工夫
- (3) **地域全体のために**：自分の幸せが、地域全体の幸せに直接に繋がるか？  
→ 市民もそれぞれ、求めるものもそれぞれ（多様性）  
→ それぞれ一家言のある方々：できるだけ多くの方の見解を引き出す意識